

20代の頃から連載させていただいているこのコーナーでは直近に訪れたコースの紹介をしていますが、今回は特別編。今は姿を消した懐かしいコースを紹介します。

「浅間高原北軽井沢」コース  
群馬県 No.22 JOA 公認 No.22  
10km 10ポスト

### 10代サヨナラツアー

25年前の平成元年7月24日に挑戦した浅間高原北軽井沢コースは、群馬県で最初に誕生したコースとして知られています。その歴史は昭和47年6月26日の申請から始まり、私が踏破した時点で17年が経過していました。草軽交通が管理していましたが、その数年後に閉鎖になった模様です。古いマップのまま運営されていたことから、このとき既に現地との相違が顕著になり、支障を感じる状態でした。とはいえ、浅間山北東部に広がる標高1,000mを超える高原地帯の風は涼やかで、盛夏を感じさせない爽やかさに包まれています。

7月29日が誕生日の私にとって、この日から4日間かけて信州を巡った旅は、「10代サヨナラツアー」と称して、PCめぐりだけを目的とした初の泊りがけの遠征となりました。

### 長野新幹線開通前

当時の記録を紐解くと、当日は朝5時に起床し、地元せんげん台駅前のコンビニでおにぎり3個を買い込んで、大宮から高崎線で高崎駅を目指しています。今であれば長野新幹線で軽井沢へは1時間程度ですが、このときはまだ開通していません。9時前には高崎に着き、ここからJR信越本線の臨時長野行きに乗り込みます。3両編成の中間の車両に乗ってすぐ、窓を全開にします。今は終点となった横川駅では、当然峠の釜飯を求めるべきところ、若かった私はスポーツドリンクだけを長い停車時間に買っています。電車に機関車を連結し、碓氷峠をゆっくりゆっくり登っていきました。

3年後、軽井沢ABCコースを回りに



再度訪れた際は、この区間で釜飯をしっかりと味わっています。

10時半過ぎに軽井沢駅に到着し、小諸駅まで買った切符に途中下車のハンコを捺してもらいます。駅前のコインロッカーに大きな荷物を入れ、草軽交通のバス停を探しに行きました。晴天だったこともあり、折り畳み傘もロッカーに置いていってしまったことを、後に大いに後悔することとなります。見える範囲にあるバスは西武のもので、近くには西武の方に尋ねると、草軽交通は2階建ての建物の裏から出ていると教えてくれました。コースが開設された12年前までは鉄道が敷設させていたところをバスでたどるというわけです。旧軽井沢の商店街を抜け、有料道路の白糸ハイランドウェイに入ります。白糸の滝までは当時は未舗装で、観光バスを改造した大型のバスが

通るルートには不釣合な印象を受けました。その後バスは国道146号線を進んで群馬県に入り、浅間牧場の西側を北上して北軽井沢に到着します。

バス停横に草軽交通の営業所があり、PCの案内板もすぐに確認できる位置に設置されています。掲示されているマップは1:25,000の2つ折りという超古典タイプです。営業所を訪ねてマップを求めると、扱いは隣にある観光案内所だと教えてくれます。行ってみると女性の方が対応してくれ、1部10円というこれまた時代が止まったかのような値段で販売してくれました。掲示されていたマスターマップにはポスト位置が記載されているだけで、どちらが第1ポストか分かりません。聞いてみると、これもすぐに教えてくれて一安心。さらに第1ポストのすぐ横にゴルフ場ができたことから遠回りが必要



になるかもしれないこと、第9ポストが壊れてなくなっているかもしれないということも伝えてくれました。

## 順調な滑り出し

晴れ渡る空の下、11時58分にスタートです。区画整理された区域にある第1ポストまではすぐに到着します。道路を西に向かって川を渡ってすぐに左折し、道なりに今度は右折するとほどなく見えてきます。遠目に一瞬おかしなように見えたのは、ポストが損壊してペしゃんに潰されていたからです。根本も引き抜かれ、低木にもたれかかるように放置されています。結果として、観光案内所で「壊れている」と言っていたのはこのことで、第9ポストは無事でした。ポストの状態も他の9か所は経年劣化もさほどなく、大きな問題はありません。

第1ポストの西側が白川ゴルフ倶楽部という地図には記載のないゴルフ場が確かに出来上がっていましたが、ルートが妨げるものではありません。それ以前にポストから東へは夏草の繁茂が激しく、来た道をそのまま引き返して道路まで戻ります。一本道を北東方向に進み、送電線をくぐると左手には、つり堀になっているハイロン湖が見えてきます。このあたりからポストのある東側に入る道を探します。町道であったそのルートは無難に見つかり、道なりに北に向かうと右手の牧場の牧柵に寄り掛かるようにして第2ポストが立っています。コース中、最も錆が目立っているポストです。記録を見ると、ここでカメラのフィルムを交換しています。まだデジカメなどなかった時代でした。フィルムを巻き取る音が懐かしく思い出されます。

次の第3ポストはコースの最長区間です。元の広い道に戻り、突き当たるまで北に向かいます。この突き当りに差し掛かる頃、後ろから「こんにちは」と声をかけられます。地元の小学生で、見ず知らずの通行人にも積極的に挨拶をすることを学校で教育されているようで、その後他の生徒からも同じように挨拶を交わされました。とても気持ちのいいものです。牛の姿をながめながら、のんびりと高原気分を楽しみます。川を渡って登り気味に進んでいくと、道の曲りでポストを発見します。

第4ポストへは地図上の最短路を行く小道が判然とせず、道路に迂回することとします。このころから少々雲行きが怪しくなってきます。途中、見晴らしの良いところがあり、持参してい

たおにぎりをスポーツドリンクで流し込んでエネルギー補給をします。この先、農家に入り込んでしまう道と公道の見極めが難しく、行きつ戻りつして正しいルートを見出し、橋を経由するとポストはもうすぐ。道路にでる直前で鮮やかな紅白色が目飛び込んできます。そして、困ったことにこの時、雨がポツポツと降り出してきました。傘はロッカーの中…。

第5ポストは近い距離ながら地図と現地の相違があり、判断を難しくしています。今一つ確信のもとにそのまま歩いていくと、夏草から顔を覗かせているポストが待っていてくれました。国道まで出て北に折り返し、分岐にある第6ポストは順調に到達します。ポストは夏草から首だけを覗かせていました。雨もいつのまにやら気にならなくなる状態となり、1kmほど距離を稼ぐと道端の第7ポストも無難に通過します。さらに、南に向かって砂利の多い道を歩いた先で第8ポストも数軒の民家が立ち並ぶ付近で発見することができ、残りの区間のルートを見る限り楽勝ムードが漂ってきます。



第2ポスト

## 簡単には終わらない

ところが、このコースの所要を5時間近くに引き伸ばしてしまう大きな落とし穴にここから迷い込んでしまうことになるのです。地図上のルートではわずか1度、左手に直角に曲がるだけ。直線のルートをたどる極めて平易な区間です。しかし、現地はそんな簡単な状態ではなくなって、完全に混乱を来してしまいます。迷いに迷い、そのうえ弱り目に祟り目で突如強い雨が降り始めてきます。雷まで鳴り出し、雨宿りのために農家の納屋に退避して止むのを待つことにします。30分以上留まり、帰りのバスの予定時刻まであと30分と迫った15時40分に小止みになったのを見計らって歩き始めたものの、これが大失敗。すぐにどしゃ降りになり、全身ずぶ濡れになってはもう開き直るしかありません。ますますひどくなる雨の中、東に東へと進んでいるうちに、気づいてみると地図の中央

を走る国道まで出てしまっていました。こうなったらスタート地点までいったん戻り、10、9の順番に遡るのが良いと判断します。北軽井沢のバス停も経由し、現在位置を完全にキャッチすると、跡見学園の金網の中にある第10ポストへようやく到達することができました。

最後に残った第9ポストは欠損の可能性を聞かされていたため、不安に思いながら向かいます。ここも地図にある一本道ではなく、造成によって極めてわかりにくい状況となります。それでも北に向かって消え入りそうなルートを進むと、鮮やかなポストが姿を現し、全てのポストの確認が完了します。来た道に戻り、冒険の終了時刻は16時42分になっていました。

観光案内所の女性に第9ポストの無事を伝え、予定より1時間遅い17時10分のバスに乗り込みます。このバス、終点の軽井沢駅まで乗客は私1人の貸切状態でした。

軽井沢から宿泊先の小諸までは、現在しなの鉄道に移管されている区間ですが、当時はまだ信越本線と名乗っていました。オリエンテーリングでは初めて泊まるビジネスホテルは小諸の駅前にあり、記録には「10時前にはベッドに入ったもののなかなか寝つけなかった」と綴られています。苦勞して制覇した浅間高原北軽井沢コースの余韻にまだ興奮していたのかもしれませんが。懐かしい青春の思い出です。

これ以降どんなに晴れの予報でも雨具は今も必携にしています。

(1989年7月24日 踏破)  
(大高竜亮)



第10ポスト